

# 環境保護活動

## 環境経営の推進

### 「2011-2012年度環境中期取組計画」の策定

当社は、中長期的に「持続可能な社会づくり」に貢献するグローバルな保険グループを目指すため、「2011-2012年度環境中期取組計画」を策

定しました。本計画は、当社の事業活動を通じて、「1. 地球温暖化防止に向けた対応」、「2. 循環型社会構築に向けた対応」において今後取り組むべき具体的な数値目標を掲げるとともに、「3. 環境保護に向けた企業取り組み」、

「4. 環境経営推進体制の確立」において定性的目標を設定しています(①)。現在、本計画達成に向けて『Ecoダイエット運動』を展開し、全社を挙げて環境問題に取り組んでいます。(②)。

### ① 環境中期取組計画 2012年度目標

1. 地球温暖化防止に向けた対応 (省エネ)		3. 環境保護へ向けた企業取り組み	
事務所エネルギー削減	・CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> ) 2007年度比 10%削減	本業を通じた環境配慮行動	・資産運用における環境配慮行動の推進
物流エネルギー削減	・物流エネルギー(t・km) 2009年度比 10%削減	生物多様性保全への対応	・環境保全活動への助成・支援の推進
2. 循環型社会構築に向けた対応 (省資源)		4. 環境経営推進体制の確立	
紙使用量削減	・紙総使用量(t) 2009年度比 20%削減 ・OA用紙使用量(t) 2009年度比 15%削減 ・メールボックス帳票種類数 2009年度比 20%削減	環境経営推進体制の確立	・環境取組PDCAサイクルの定着 ・役職員の環境取組意識の向上 ・環境関連情報開示の推進
紙リサイクル再生紙利用の促進	・ロールボックス回収資源 リサイクル率 100%維持 ・主要事業所一般ごみ リサイクル率 100%維持		
グリーン購入の推進	・グリーン購入率 80%		

### ② 環境パフォーマンスデータ

	2009年度	2010年度	増減	増減理由	
省エネルギー	CO <sub>2</sub> 排出量 <sup>※1</sup> (t-CO <sub>2</sub> )	179,000	168,000	▲6.1%	CO <sub>2</sub> 排出量・電力使用量とも、全社設備更新・運用改善・全社運動による省エネ取組の効果が現れましたが、電力使用量については7~9月の猛暑による空調エネルギー量増加に伴い、年間では若干前年実績を上回りました。
	電力使用量 <sup>※1</sup> (千kWh)	328,900	329,314	0.1%	
省資源	紙総使用量 (t)	12,775	9,954	▲22.1%	約款のCD-ROM化やコンピュータリストの削減、全社運動によるOA用紙削減等により減少しました。
	紙のリサイクル総処理量 <sup>※2</sup> (t)	4,420	3,446	▲22.0%	紙使用量減少に伴いリサイクル量は減少しましたが、集中廃棄する紙は100%リサイクルしています。

※1 エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)第7条第3項の規定に基づき算出しています。当社投資用物件・営業用物件・厚生用物件の総エネルギー量を記載しています。  
※2 リサイクル処理量には当年度以前に回収された廃棄書類等も含まれます。

## 職員啓発活動の推進

### エコキャップ運動<sup>※</sup>の展開

当社は、大量消費・大量廃棄の社会から持続可能な循環型社会への転換へ寄与するべく、2005年度から日比谷本社や大井事業所、一部の支社など、事業所単位で「エコキャップ運

動」の取り組みを始めています。そして2010年度には全国の拠点にて展開を開始し、当社職員だけでなく、運動の趣旨をご理解いただいた地域の皆さまにもご協力いただきながら活動しています。2011年3月末時点で回収開始か

ら累計約2,060万個のキャップを全国で回収し、約26,000名分のワクチンがNPO法人エコキャップ推進協会を通じて寄付されました。

※ ベットボトルキャップを回収して再資源化をすることによって地球温暖化防止に貢献し、さらにその収益を発展途上国の子どもたちにワクチンとして寄付する活動。

## 資産運用を通じた環境への取り組み

### 環境に配慮した不動産投資

当社は、省エネ設備の導入や建物の緑化により、環境に配慮したビル建築を積極的に進めています。既存の建物に対しては、大規模物件を中心に空調設備の運用改善や設備改修などの省エネ取組を推進しています。また、遊休物件を再利用する「リノベーション」にも取り組んでいます。

### ■新築建物における環境配慮

当社は、空調・照明等の省エネ設備の導入により、新築ビルの環境性能の向上を図るとともに、建物の緑化にも努めています。また、主要なビ

ルの建築に際しては、建物の環境性能を評価する指標CASBEE<sup>※</sup>の優良評価にあたるAランク、そして最高評価にあたるSランクの取得に向けて取り組んでいます。

### ■豊洲キュービックガーデンの竣工

2011年1月に竣工した豊洲キュービックガーデン(③)においては、さまざまな環境配慮対応を行っています(④)。これらにより、東京都の定めた標準的なモデルオフィスビルと比較して、エネルギー消費量約35%削減、CO<sub>2</sub>排出量30%削減を実現する建物となっており、同ビルはCASBEEの最高ランクであるSラン

クの認定を受けています(⑤)。

### グループ会社でのSRIファンドへの取り組み

グループ会社であるDIAMアセットマネジメントでは、環境などの社会的課題に配慮したSRIファンドを設定・運用しています(⑥)。

※ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)。2001年に国土交通省の主導の下、(財)建築環境・省エネルギー機構内に設置された委員会によって開発された、建築物の環境性能を評価し、格付けする手法。省エネや省資源、リサイクル性能といった環境負荷低減の側面はもとより、室内の快適性や景観への配慮といった環境品質・性能の向上といった側面も含めた、建築物の環境性能を総合的に評価するシステム。

### ③ 豊洲キュービックガーデン



### ④ 豊洲キュービックガーデンの環境配慮対応事例

- 屋上に太陽光発電設備を設置し、ビル内で使用する電力として活用。
- 屋上緑化、外壁ガラスの二重化および太陽光に合わせて自動制御する電動ブラインド等を導入することで熱負荷を低減し、空調エネルギーを抑制。
- 人を感知して、オフィスの照明や空調を自動的に調整する機能を装備。

### ⑤ CASBEE認証取得状況

ビル名	所在地	備考
豊洲キュービックガーデン	東京都江東区	Sランク取得済
新大井事業所(仮称)	神奈川県足柄郡	Sランク取得に向け取組中

### ⑥ DIAMアセットマネジメントが設定・運用するSRIファンド<sup>※</sup> (2011年3月末時点)

ファンド名称	設定時期	※これらのファンドには元本割れのリスクや手数料など商品に関わる注意点が異なります。各ファンドの概要、リスク、手数料などは、DIAMアセットマネジメントのウェブサイトでご確認いただけます。なお、上記は当社グループの社会的責任投資(SRI)を紹介するものであり、ファンド(投資信託)の勧誘を目的とするものではありません。当該ファンドは、当社でお取り扱いしていません。
DIAM高格付インカム・オープンSRI(愛称:ハッピークローバーSRI)	2005年	
自然環境保護ファンド(愛称:尾瀬紀行)	2006年	
DIAM世界環境ビジネスファンド(愛称:シロクマ)	2007年	
DIAMジャバングリーンファンド(愛称:新三種の神器)	2009年	